発行: 大阪ガス エネルギー・文化研究所 (CEL) 企画・編集: U-CoRoプロジェクト 問合せ先: tel.06-6205-3518 (担当: CEL 弘本) ※U-CoRo=ゆ ーころ(上町台地コミュニケ http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/ucoro/index.html

#### 「上町台地 今昔タイムズ」とは

わたしたちが暮らす"上町台地"。古代から今日まで絶えることなく、人々 の営みが刻まれています。天災や政変や戦災も、著しい都市化も経験しまし た。時をさかのぼってみると、まちと暮らしの骨格が浮かび上がってきます。 自然の恵みとリスクのとらえ方、人とまちの交わり方、次世代への伝え方…。 過去と現在を行き来しながら、未来を考えるきっかけに、U-CoRoプロジェ クト第2ステップでは、壁新聞「上町台地 今昔タイムズ」を制作いたします。

# ■豊かなつながりも垣間見える、百貨店・商店街との思い出

憧れの空間、華やかな雰囲気、滅多に行けなかったけれ ども思い出は今も輝いている百貨店。両親や祖父母の買い 物のお伴、お使い、通学路など日常に溶け込んでいた商店 街。上町台地の語り手一人ひとりの思い出話からは、人と人 とのつながりをベースにした"豊かさ"が、そこかしこにあっ た様子が垣間見えてきます。

大阪の百貨店は大丸やそごう、三越などの呉服屋に起源 を持つものと、阪急・阪神や近鉄、京阪など鉄道会社の系 列に属するものに大別されます。呉服屋系は大坂三郷の旧 市街に、鉄道系は旧市街の縁に設けられたターミナルに、 それぞれ開店し、広がっていきました。一方、商店街は旧

阪神

北浜の大阪三越百貨店、モダンな 建物が人目を引いた(絵葉書より)

心斎橋筋(戎橋付近、絵葉書より)

街道や寺社の参道沿いなど 主要な道に開いたものと、 個店が自然集積したものに 大別されます。

ご近所や沿線など明確な ケットを持ち、お客さん =地域住民と店主・店員さ

んとの顔が見える関係が信頼を育んできた百貨店や商店街。 子どもの頃の一つ一つの思い出は、耳に残る親御さんとお店 の方との親しげな会話などもあってのものかもしれません。

母親は昔も今

**店員さんたちとの関わりのあり様などに思いを馳せていただきながら、** 

百貨店やお店

店主

上町台地の 子どもたちの思い出 (現在40歳代以上の方)

梅田の阪急百貨店は装飾も キレイで、超一流ホテルへ行く感覚で した。たまの外食も百貨店の食堂でした。

1日東区 玉造、昭和30年代

百貨店と言えば北浜の三越 ですね。子どもの頃に食べたあのホッ トケーキを、もう一度食べたいです。

三越の食堂では銀のスプーン にテーブルクロスで、子ども用には塗り絵 ができる敷紙!屋上游園地は松坂屋

商売人の父が流行を捉えた りするため、私をお供に三越へ通ってい ました。松坂屋はずっと日常使いでした。

💣 旧東区 島町、昭和30年代

連れられて行くのは、市電やトロ リーバスで心斎橋の大丸、城東線で梅 田の阪急へというのが多かったですね。

大丸や三越の食堂では、 -クの背にご飯を載せて口に 運んだりして、贅沢な時間でした。

旧南区松屋町、昭和20年代

心斎橋では不二 家レストランがお 気に入りでした。ミツ ヤやプランタンは大人 の雰囲気の店でした。

バラで知られる高島屋 のリースの柄の包装紙 叔母が勤めてい 百貨店は叔母のつ ながりで日本橋の松坂屋、屋 た高島屋へ、心ブラで行 きました。ただ歩くだけで 上遊園地は高島屋、心ブラ しながら大丸とそごうでした。 も何か楽しい空間でした。 1日南区 日本橋、昭和30年代

心斎橋では大丸から小 大丸へ寄ったり、上等の 靴はワシントン、時計は仲庭

総本店、そして終点は高島屋。

心斎橋へは一張羅の服 で「お出掛け」でした。商 店街の道路舗装がS字模様 で、それをたどって歩いたり。

北浜の三越にあっ た三越劇場は、子どもは確か 入場無料で、一流の芝居や 落語などをたくさん観ました。

松坂屋

猪熊弦一郎デザインの三越の包装紙 (文字は当時三越にいた、やなせたかし)

大阪の中心道路、御堂筋に面して大丸とそごうが並ぶ(絵葉書より うが並ぶ(絵葉書より)

トの包装紙

(SIB)

松坂屋は昭和41年まで日本橋で 営業(絵葉書/大阪市立中央図書館蔵)

台地の上にある上本 町の近鉄は、洋風の重厚な 建物、地階で売っていたピロ シキなど、思い出が一杯です。

生野本通や国分通、桃 谷などの商店街や市場が にぎやかでしたし、映画館も あって、近所で楽しめました。

クルマ好きの父とは 天満橋の松坂屋へ。日本橋の 頃、相撲見物帰りに祖父と食 べたホットケーキも思い出です。

店服吳丸大会

百貨店には縁遠か ったですが、行くなら上六の 近鉄か母の実家に近い梅 田の阪急で、今もそうです。

細工谷の商店街がに 🏚 ぎやかで、母もほとんどそ こでした。友達との買い食い も、通い慣れた商店街でした

繁華街のアベノも近 かったのですが、生野本 通などご近所で親も私も十 分買い物ができていました。

背景の地図は昭和30 (1955) 年発行の「大阪市街図」

百貨店の包装紙等資料/行俊良雄さん、中越慈子さん他提供

も天満市場へ出 かけています。「健 康のため」という理 由が加わりつつ、会 話も楽しいようです。 沿線の事物を集めた阪急の包 装紙(近年 カラーの復刻版も登場)

天満橋に移転した松坂屋の屋上 遊園(昭和41年/ -般財団法人J.フロ ハリテイリング史料館提供)

飲食店が増 🐠

えた天神橋筋 商店街も、昔はいろ

んな店があって、着

物や洋服の仕立て

も用が足りました。

大丸 吳服店 新館御案内(大阪市立中央図書館蔵)

近鉄上本町店5階の大食堂 (近畿日本鉄道株式会社提供)

桃谷商店街

国分通商店街

商店街は子どもの頃から

で大賑わいでした。郊外へ移っ

ても近くの商店街通いです。

たまに行く百貨店は 上六の近鉄、大丸や高島屋

はさらにたまに。布施のニチイ

が百貨店替わりでした(笑)。

桃谷商店街や五条の公

服も家で縫うたり、繕ったり、上

等なもんは滅多に買わずでした。

設市場で何でも揃いました。

空堀です。年末や正月は人

### ■まちの未来への希望も映す、80~90年代の百貨店・商店街での思い出

上町台地のまちの次代を担う世代の思い出から浮かび上がるのは、商品やブランドを「売る」「買う」ということだけではない、人の匂いが漂う「何か」を求め続けていること。それが世代を超えて、今もなお継承されてきているようにみえ

ます。言葉を交わさずに液晶上だけで済む買い物、互いの顔も覚えることのない店先の関係。そうした「利便」などに何かしら満たされぬ感性を、未来ヘリレーしていくことが、まちや社会にとってとても大切なことではないでしょうか。



なじみ・行きつけ・御用達 百貨店・商店街との 思い出から垣間見る 暮らしとつながりの変化

かつて松坂屋だった高 島屋東別館内には「高島 屋史料館」も(入場無料)

1980~90年代、 上町台地の 子どもたちの思い出 (現在30歳代の方)

#### 松坂屋へは家族全員クルマに乗っ て。屋上の遊園地やゲームコーナーで遊 んで、ご飯を食べて帰るパターンでした。 客とお店の顔が見え合う 旧事区 玉浩 昭和60年前往 「行きつけ」「なじみ」なまちなか暮らし 百貨店や商店街、個店などとの関係を表す言葉に「行き 今は屋上遊園地もないです つけ」「なじみ」があります。今回の聞き取りのなかでもそ し、自分の子どもたちは郊外のショッ の言葉が浮かぶお話がいくつもありました。「子どもの頃か ピングモールのほうが楽しいようです。 らの顔なじみ」「店の前を通れば声を掛けてくれる」「通り 玉诰、昭和60年前後 すがりに挨拶を交わし、ときには世間話も」。商店街やご 近所の個店だけでなく、百貨店でも店員さんとのつながり があっての「なじみ」「贔屓」だったことが垣間見えてきま した。つながりの弱体化は地域コミュニティのなかだけで 松屋町筋 北浜の三越跡地には、今はタワー 語られることが多いですが、買い物や職場、学校などさま や商業施設が建 ざまな場面でのつながりの減退とも、一緒に考えていく必 要もあるでしょう。互いに顔が見える「行きつけ」。家族ぐ 三越が今も百貨店のイメージ 商店街との縁は薄いので です。すごくいい雰囲気の建物でしたし、 るみの「なじみ」の店。みなさんはいくつお持ちですか? すが、子どもの頃はご近所に 食堂へ家族で行くのも楽しみでした。 生鮮品などを扱うよろず屋さん があって、母の御用達でした。 祖父母も両親も通ってい ペット屋さんやファンシー た北浜の三越は、おいしかったホット ショップもあった松坂屋の屋上遊園 ケーキとともに今もよく思い出します。 地は、ご近所の遊び場の一つでした 旧東区島町、昭和60年前後 天満橋の松坂屋が撤退した後は、京阪 シティモールとして現在も営業 区 上六の近鉄では屋上遊園地や お菓子売り場のブルグル回る菓子売り機 械、楽器売り場でピアノを弾きまくったり。 17年新築のそごうの建 今は大丸心斎橋店北館 東成区 中央区 **布施にあったニチイ**も私に は百貨店的な空間でした。遊園地 心斎橋は地下鉄の もオモチャ売り場も何でもあって 近鉄難波 駅がとても良い感じで、そこか なんばマルイ ら百貨店気分でした。上六の 近鉄はご近所さんですね。 百貨店はアベノか上六 の近鉄ですね。弟が迷子になっ たときの館内放送や、回転する 菓子コーナーなどが思い出です。 近鉄劇場跡に出来た複合施設上本 生野区 発中、平成ひと 町YUFIRAに新歌舞伎座が移転 難波の高島屋は建築時のタ 桃谷商店街 高校・大学になってからキ タやミナミにもよく行きだしましたが、で ずっとご近所だった五条 **桃谷の商店街**は母との買 もまた地元へ戻ってきています(笑)。 商店会とは、今では会員と い物や寄り道など思い出が してのお付き合いに。仕事の 杯。郊外育ちの友達にその 手土産を買ったりもしています。 良さを再確認させてもらったり。 日本橋にあった松坂屋の建物は、現在 高島屋の東別館となって健在

背景の地図は現在 (平成 25/ 2013 年) のもの (データは国土地理院の電子国土web システムから配信されたもの)

※平成元 (1989) 年、旧南区と旧東区が合区して中央区に、旧北区は旧大淀区と合区して北区に

## ■小さな地域の集合体でもある上町台地と大阪のまち

都市は地方や村との対比で語られることが多い言葉です。しかし、そのことに違和感を持つ都市人、上町人も少なからずいます。今回のマップでは百貨店などとの関わりを通した都市のなかの「小さな地域」も少し浮かび上がってきました。北浜にあった三越との縁が深い地域、大丸や心斎橋筋商店街との思い出が多い地域、

旭(主)

キタやミナミとの距離感。「大阪」「上町台地」と一口でくくられるなかにも、地域性の多様さが垣間見えてきます。村の集合体が都市。語られる思い出は、それぞれの「村」の思い出。地域コミュニティやつながりの再生は、それぞれの地域で培われてきた小さな暮らしの文化の再生も伴うものである必要があるのかもしれません。

ハルカス近鉄

### ご協力いただいた方々(順不同)

生野東(四)

泉桂子さん、河合清司さん、河合浩司さん、吉見孝信さん、吉 見良子さん、岸本智嘉子さん、岸本知子さん、K·Hさん、鈴木 一男さん、鈴木伸廣さん、宮崎昌久さん、永井佳子さん、中西 紘一さん、神田晃治さん、神田さとみさん、徳力修司さん、吉 岡武さん、中越一之さん、中越황子さん、富士 原純一さん、服部多嘉男さん、行俊良雄さん、吉村健一さん、 金恵美さん、松原佳子さん、柴田尚子さん

JR桃谷駅から東へアーケーが長く連なる桃谷の商店街